

帰化植物の話

— セイヨウウツボグサ —

全国農村教育協会 廣田伸七

ウツボグサは日当たりのよい原野や道ばた、林縁などに生育し、茎は直立して高さ25～30cm、普通は分枝しないが、基部で数本に分枝することもある。初夏に茎先に長さ3～8cmの円柱状の花穂をつけ、紫色の唇形花を密につける。夏に花が終わると葉が褐色に変わって枯れることから夏枯草（カゴソウ）という呼び名もある。昔から消炎性利尿薬、口内炎、扁桃炎などの生薬として利用された。

このウツボグサの垂種のセイヨウウツボグサが最近各地に野生化して帰化植物となっているが、このセイヨウウツボグサの写真や形態について記載されたものは少ないので今回はこれを掲載した。

●セイヨウウツボグサ〔シソ科〕多年草

Prunella vulgaris L. subsp. *vulgaris*

ヨーロッパ、北アフリカ、西アジア、インド、ネパール、ブータン、中国、朝鮮などに広く

分布し、オーストラリア、ブラジル、アメリカに帰化している（神奈川県植物誌2001より）多年草。根茎を出して新しい株をつくる。茎は根元でよく分枝して横に広がり径40cm内外の大きな株になる。茎は四角柱状で稜があり、中実、上向きの白毛があり、長さは18～24cm、基部はときに紫褐色を帯びる。葉は対生し葉腋から枝を出す。葉身は卵状楕円形～卵形、長さ2～4cm、幅1.5～2.5cm。両面に白毛があり、縁はやや波形。葉柄は長さ1.0～2.2cm、白色の毛がやや密にある。初夏に茎先に長さ1～2cm、径1cm内外の花穂を出し、紫～白色の唇形花をつける。在来ウツボグサの茎は直立するが、セイヨウウツボグサの多くは茎の下部は横に這って広がり先が立つ。渡来したのは花壇に適したハーブとしてセルフヒールの名で園芸店などで売られたものが逸出したものといわれる。（カラー写真は口絵3頁に掲載してある）



▲セイヨウウツボグサ（カラー写真は3頁参照）



▲ウツボグサ